

河村たかし政治塾 開講について

「河村たかし政治塾」は次世代の政治リーダーを、河村たかしと豊富な講師陣が育成する総合型政治塾です。

日本を覆う既存政党への不信感。拡がり続ける格差社会。これらに対して政治は何をすべきであり、政治のどこが問題なのか。

河村たかしが、すさまじい価格競争最前線である家業の古紙業経営者体験と30年の政治人生を元に、また正しい経済学に基づき、あらゆる政治課題について受講者の皆様と楽しく語り合います。会費も実費程度でございますのでぜひお気軽にご参加下さい。お申し込みお待ちしております。



河村たかし

(河村たかし略歴)

家業の古紙業経営を経て34才で政治家を志して以来落選2回、衆議院選連続5回トップ当選を経て平成21年から名古屋市長。衆院時代は日本新党から新進党、(野党)自由党、民主党と一貫して非自民を貫く。平成18年に政策全般にわたる「河村ビジョン」を発表、その実現のためもあり名古屋市長選に出馬。平成23年の出直し市長選では自民・民主相乗り推薦候補をトリプルスコアで破り当選(662,251票、得票率69.8%)。これまでに全国で選挙応援演説した候補は360名を越える。衆院時代の秘書経験者からは国会議員3名、地方議員4名を輩出。平成23年に地域政党減税日本を設立、代表となる。平成23年の統一地方選では全国で47名の地方議員を輩出、地域政党ブームの原動力となる。

著書：

「生きて甲斐ある」(自費出版)、「国破れて議員あり」(2004・徳間書店)、「消された校舎」(2005・共著)、「おい河村!おみやあ、いつになったら総理になるんだ」(2006・ロングセラーズ)、「河村ビジョン 庶民革命」、「この国は議員にいくら使うのか」(2008・角川SSC新書)、「名古屋から革命を起す!」(2009・飛鳥新書)、「名古屋発どえりゃあ革命!」(2011・ベスト新書)、「減税論」(2011・幻冬舎)、「復興増税の罠」(2011・小学館)

河村たかし政治塾 概要

名称

河村たかし政治塾

主催

減税日本

組織

塾長 河村たかし(減税日本代表)

事務局長 広沢 一郎(減税日本幹事長)

設立目的

次世代政治リーダーの養成

講義内容

河村塾長による講義

各種政策の専門家による講義

質疑応答、ディスカッション

講義課目

政治、財政(減税政策など)、外交、安全保障、農政、環境、司法、教育、文化、雇用・安全、社会保障他

(基本テキスト：河村ビジョン庶民革命)

カリキュラム

(1) 年6回(隔月)講義を行います。

(2) 夏期合宿(1泊2日)あり(予定)。

スケジュール

2月24日にプレ塾（概要説明および模擬講義）開催。4月より正式開塾予定
在塾期間

1年間を1期とする。1期修了の方には、塾長より修了証を授与します。

開催場所

名古屋、東京など

募集人数

各会場200名（予定）。入塾申し込みは2/24のプレ政治塾修了後開始予定。

応募条件

年齢制限等一切無し。入塾希望者から書類選考にて入塾者を決定致します。

費用

毎回800円程度(実費)。夏期合宿は別途。

備考

入塾者に対しては、各種選挙への公認・推薦を約束するものではありませんが優先的に考慮いたします。

特別クラス（検討中）

受講生の中で各種選挙を目指す意欲と能力が高い塾生のために、特別クラスを検討中。塾長自ら政策や国政選挙ノウハウを直接伝授します。

プレ 河村たかし政治塾

日時：2月24日（金） 18:30～20:30

場所：ウイル愛知3F 大会議室

内容：

1. 塾の概要説明（事務局長）
2. 河村塾長 講義
3. 講師による講義 上念司氏 テーマ「デフレと円高の何が「悪」か」
4. 質疑応答

費用：500円

募集人数：250名（定員に達し次第終了）

応募方法：減税日本ホームページ上の応募フォームより。2月9日募集開始、定員に達し次第終了します。

<http://genzeinippon.com/> または検索サイトで「減税日本」を検索。

備考：講師 **上念司（じょうねん つかさ）氏**

1969年、東京都生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。

日本長期信用銀行、臨海セミナーを経て独立。

2007年、経済評論家・勝間和代と株式会社「監査と分析」を設立。取締役・共同事業パートナーに就任。現在同社代表取締役。

勝間和代のブレーンの一人として、主に金融政策、財政政策、外交防衛政策等のリサーチを行なっている。

著書多数：

- 「復興増税亡国論」（宝島社新書・共著）
- 「デフレと円高の何が悪か」（光文社新書）
- 「日銀貴族が国を滅ぼす」（光文社新書）
- 「日本は破産しない！」（宝島社）
- 「日本ダメ論のウソ」（イースト・プレス）
- 「日本再生を妨げる 売国経済論の正体」など

